

堡西北之哈木爾達坂、即古俱密山。西戎語哈俱庫克等音均可通用。有哈木爾山、而知哈密主名尙在迤西。非可
以一城概之也。哈木爾²⁶即元之哈密力、明初之哈梅里、永樂後之哈密衛。史官不知土音之爲哈梅里。誤分爲二地。
猶天方之與默德那耳。俱密哈密力哈密里哈木耳一音異譯。非親詢耆老、焉乎知之。

といふてゐる。こゝに三堡といふのは、侍行記に據ると大體哈密の西方百二十里の地であり、そこからほど西北十
一里の地に哈木爾達坂がある。新疆圖志^二建置二、哈密の條に據ると、三堡は城西百五十里に在りと記してある。
元和志は納職縣の東北百二十里に伊州即ち後の哈密があり、北百四十里に俱密山があるといふのだから、俱密山を
哈密から西方今の百五十里内外の地點にある哈木爾達坂に求めるのは、大概誤らないと見て宜からう。但だこゝに
記されたやうに、地が山に因つて名を得たか、或は山が地に因つて名を得たかは俄かに定め難い。唐代に於て伊州
即ち後の哈密附近に俱密即ち Komil, Kamil 等の名に當る山名が知られ、そうして大概唐末時代に書かれたと思は
れる此の文書に qam(i)l, qam(u)l といふ地名の出で居るのを認める時に、伊州は唐時既に Qamil とか Qannil
とかいふ名を有してゐたものであらうと考へるのは必ずしも無理ではあるまい。

更に kusān といふ名についても、遅くとも西紀第十世紀の半頃には此の地方のトルコ人の間にこれが行はれて
居たのであらうと思はれる。龜茲の土名は Kūci²⁸であつたであらうし、唐代の梵語文書には Kuci と記してある
が、³⁰Massudi は Les prairies d'or の中に、「Tagazgaz は Khorasan と Chine との間位する Kusān といふ
町を領し、今日即ち三三二二年（西紀九四三—九四四）にすべてのトルコ族中最も重要な種族で、また最もよく統治
されて居る。……彼等はすべて此等の種族中で、たゞ獨り摩尼教を奉ずるものである」と記し、また別に³¹「Kūsān